

和名	分類	特徴ほか	会える場所			
			ハイム (中野島)	多摩川土手 (中野島周辺)	生田緑地	その他
アイノミドリシジミ	シジミチョウ科	金緑色の輝き	X	X	X	全国の山地、北海道の丘陵・低山地



長野県南佐久郡 7月26日（2019年）柳の樹上でテリトリーを張る♂



長野県南佐久郡 7月25日（2019年）朝日を浴びて開張する♂



長野県南佐久郡 7月25日（2019年）早朝ササ葉上で開翅する♂

成虫発生時期（月）											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
食草 ○ 食樹								発生回数/年		越冬形態	
ミズナラほか（ブナ科）								1		卵	

山地性のシジミチョウでハイム周辺では見られませんが、オスの羽は黄色みがあった強い金緑色で、オオミドリシジミの青緑、ミドリシジミの緑に比べると重厚な派手さがあります。アイノミドリシジミのオスは早朝2～3時間ほど活発に活動し、自らの縄張り（テリトリー）に侵入する他のオスを追い出すため、卍巴（まんじどもえ）飛翔を繰り返し、キラキラ光りながら2頭、或いは3頭、4頭がもつれ合い飛ぶ姿は圧巻です。メスは他のミドリシジミと同様に褐色の地色に、遺伝によりA（橙班）、B（青班）、AB（橙青班）及びO（無班）の各タイプに分かれます。



長野県南佐久郡 8月5日（2006年）



同上 7月24日（2007年）羽化後草を這い上る♀



長野県南佐久郡 7月25日 (2019年) 早朝ササで開翅する新鮮な♂



長野県松本市 北アルプス山麓 8月9日 (2020年) ♀ A B型 周辺にはミズナラは見られないところの下草

長野県南佐久郡 7月22日（2021年）ミズナラ林に囲まれた空き地でテリトリーを張る♂たち。直射日光、日影、撮影の向きで様々に変わる微妙な構造色はゼフィルスの中でも金緑が強く直射日光に当たると黄色みを帯びる ↓



同上 同じ葉上でも直射日光では黄色みが強く出る ↓





長野県南佐久郡 7月22日（2021年） スギの葉上で開翅する♂ 微妙な撮影角度が原因して後翅は光っていない

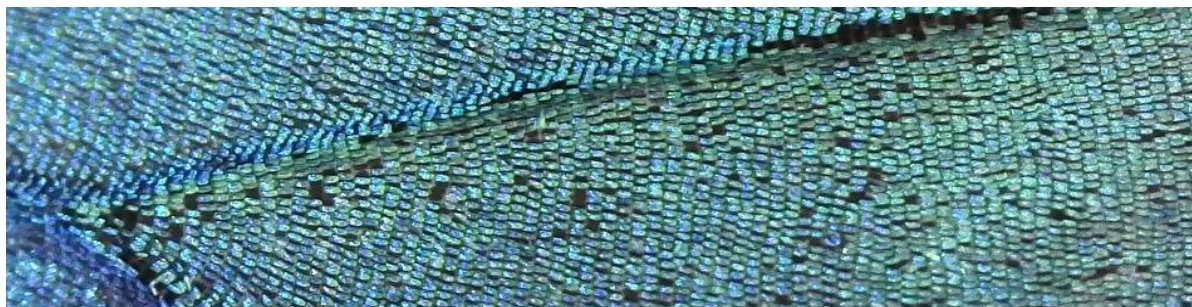


長野県南佐久郡 7月23日（2022年） ♂2頭のテリトリーをめぐる祀巴。儀式のようにも見えるがそんな悠長なものではないのだろう。自らの末裔を残すための熾烈な闘い・・・

ミドリシジミ類の構造色の違い
(見る角度によっても微妙に変化する)

アイノミドリシジミは特に金緑色の輝きが強いのがわかる

オオミドリシジミ



ミドリシジミ



アイノミドリシジミ

